



宮司プレス 百十二号

彦島八幡宮 宮司ニユース
発行者 彦島八幡宮
宮司 柴田 宜夫
発行 平成二十八年 三月 十四日

◇宮司の柴田です。今年になって二回目の発行ですが、すでに、一月遅れとなつています。遅れを取り戻すどころか、累積は、六ヶ月となつてしまいました。

◇日本の神々の祭りというのは、古代から、古式ゆかしく、連綿(れんめん)として受け継がれてきました。その営みのなかで、最も大切なことが、生々発展(せいせい)はつてん)です。まさに、絶えず勢いよく発展してきたことです。けつして、生々流転(しよじようるてん)、時の流れと共に、移り変わつてきたわけではありません。むしろ、その勢いよく発展したことが、累加(るいか)、次々に加えられたのです。少し大袈裟(おおげさ)ですが、私の宮司プレスの半年の遅れは、前述(ぜんじゆつ)の生々流転(しよじゆつ)宮司プレス三十九号にも詳述(しよじゆつ)しました。天武天皇様は、生活の心がけを、「追進」とお示しになりました。競争に遅れない「追」、常にトップランナーであり続ける「進」です。天武天皇様の教えに叶うよう、遅れを取り戻しつつ、生々発展の発行を心がけたいものです。

お待たせしました、宮司プレス百十二号の発行です。

◇さて、私は、万年筆を好んで使っており、先代典行宮司の形見のものや、お祝いで頂戴したものの、長男明典からの父の日のプレゼント等、インクも黒はもちろん、赤、さらに青まで勢ぞろい。一番のお気に入り、歴史関係の雑誌の景品のもので、少し小ぶりなのですが、織田信長公が、岐阜に進出した頃から印章の印文として用い始めた武力統一の姿勢をあらわす、「天下布武(てんかぶぶ)」の文字が、刻(きぎ)まれているからなのです。実は、この言葉は、中国の「春秋左氏伝(しゆんじゆうさしでん)」を出典(しゆつてん)とするものです。武の七つの長所、「七徳(しちとく)」を備えた者が、天下を制するという意味です。その七徳とは、暴力を防ぎ、戦争をやめ、王位を安定させ、手柄を定め、民を安心させ、人々を平和にし、財産を豊かにすることです。その七徳に基づいた平和な国造り、それが、「天下布武」なのです。混沌(こんとん)とした戦国時代、乱世(らんせい)であれば

この大目標であったわけです。

◇実は、日本には、戦乱もなく穏やかで安定した平和な時代がありました。平成二十三年一月発行の宮司プレス五十六号にも詳しく記述しましたが、平安時代から、保元の乱までの三百五十年間、そして、江戸時代の二百五十年間です。この時代のことを、ラテン語で、「パクス ヤポニカ」といわれています。その「パクス ヤポニカ」が永く続いた要因は、専門家に言わせると、「神仏習合(しんぶつしゆうごう)」と「天皇制」だそうです。日本人の持つ、「寛容(かんよう)性」、外来の文化や宗教や習慣等受け入れ、日本流に解釈して取り入れるという事。そして「従順(じゆうじゆん)さ」、大きな力、卓越した指導力、リーダーシップに従い耐え忍ぶ強さというものが、「パクス ヤポニカ」を生み出した原動力ではなかったのでしょうか。

◇明治維新までの日本は、日本の心を大切にしつつ、中国からの文化を柔軟に吸収する「和魂漢才(わこんかんさい)」という姿勢をつらぬいてまいりました。西洋の文明も同じ姿勢、「和魂洋才(わこんようさい)」です。しかし、戦後、パラダイム(戦前の支配的な物の見方や共通の思考の枠組み)が、大きく転換し、日本人の精神が失われました。さらに、国を超えて地球規模での交流や通商が拡大する、グローバル化のなかで、

日本独自の知恵や戦略、「和魂」も押し流されてしまったのではないでしょうか。

◇東日本大震災から五年の月日がたちましたが、被災された方々の時間は、止まったままです。人と自然とが織りなす歴史のなかで、災害から逃れることは出来ません。

我々に来ることは、被害をできるだけ小さくする「減災(げんさい)」の努力を惜しまないことだそうです。物理学者で随筆家の寺田寅彦さんは、「地震の現象は人間の力でどうにもならなくても地震による災害は注意次第でどんなにでも軽減できると、何より備えの大切さを説いていらっしやいます。やはり、運命共同体としての地域社会のつながりこそが、災害の備えでもあるし、「減災」の「キーワード」ではないでしょうか。

◇日本人の心、和魂を失わず、「パクス・ヤポニカ」の奇跡を起こした日本人の底力ともいふべき「柔軟性」と「従順さ」でもって、共々に手を携え、苦難を乗り越えていかなければと思います。「天下布武」ならぬ、七徳を備え地域社会を治める「地下(じげ)地域布武」の大目標を叶えなければなりません。そのためにも、生々発展、そして、累加すべく、一つの一つの祭典行事を、古式ゆかしくおとめする事が肝要です。

◇神社神道は、「つながりの宗教」です。神様、大自然、地域社会の人々と「つながり」、

さらに、「つなぐ」お役目、「中執(なかと)り持ち」を果たさねばと思います。ご自愛ください。

二月の祭典行事報告

▼月次祭 *二月一日、十五日

▼節分祭 *二月三日

▼福浦稻荷神社初午祭 *二月七日

▼建国祭 *二月十一日

◆彦島八幡宮 午前十時

◆下関市 午後二時十分

▼祈年祭

◆彦島八幡宮 *二月十七日

◆六連島八幡宮 *二月二十五日

◆田の首八幡宮 *二月二十七日

▼横浜DeNAベイスターズ下関ファン集いの会 会

*二月二十日

▼朝粥会 *二月二十一日

▼彦島八幡宮宮司家柴田家祖霊祭

*二月二十八日

◇二月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会節分準備作業 *二月二日

◇建国祭奉仕の維蘇志会反省会

*二月十一日

◇神道会世話人会 *二月十四日

◇維蘇志会役員会 *二月十七日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇下関支部三役会 *二月四日

◇支部幹事会 *二月四日

◇建国青年の集い *二月七日

◇神社庁役員会 *二月十二日

◇支部長事務局長会議 *二月十三日

◇神宮大麻都市頒布向上計画対策委員会

*二月十三日

◇神社庁例祭 *二月十三日

◇山口県神社庁駐在教誨師会

◇巡回祭典後講話研修会

*二月二十八日

◇山口県神社庁教化講師会

*二月二十八日

▼西ロータリークラブ

◇市内五ロータリークラブ合同例会

*二月十二日

▼地元迫町自治会活動

◇役員会 *二月十七日

◇防災図上訓練(DIG)に消防団員として参加 *二月二十四日

▼西山小CS関係

◇西山小三年一組に出前授業に出向

*二月二十九日